小櫃公民館開館50周年 記念文化祭 開催

10月26日(土)・27日(日)

50th Anniversary

昂書道塾
子どもたちによる書道パフォーマンス

マスコットキャラクター
表彰式

作文発表をした
片倉沙耶さん・
千葉航汰さん

10月26日に小櫃公民館開館50周年の記念式典が開催され、「小櫃公民館のあゆみ」の上映、50周年記念誌の作文朗読、マスコットキャラクターの発表が行われました。
1面では記念式典と文化祭の様子をご紹介します！

極真空手 久留里道場
迫力満点の空手演武披露

小櫃小学校合唱部
元気いっぱいの合唱発表

企画①特別映像「小櫃公民館のあゆみ」上映

１９７４年の公民館開館から現在までの50年間を振り返るものとして、特別映像を編集し、その上映を行いました。QRコードから動画がご覧いただけます。

企画②子どもたちの「小櫃の未来」作文朗読

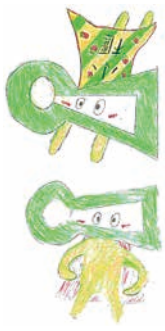
「小櫃の未来」をテーマにかかれた作文の中から、上総小櫃中学校1年の片倉沙耶さんと千葉航汰さんに朗読していただきました。

片倉さんは作文で「小櫃に足りていないことを『こうなりたい』という人々の心をつかめるような工夫をしたり、『こうなったら良い』という願いを力にして、活気あふれる小櫃地域をつくっていきたい」と述べ、千葉さんは、「将来の小櫃に、働く場所を増やして、お金や人を増やします。そして、子どもも大人も高齢者も、障がいがある人もない人も、元気な人も病気の人も、いろんな人に住みやすいと思ってもらえる町にしたい」と述べています。

この作文は、記念誌「小櫃の未来」の章に掲載するため、当時の小櫃小6年生のみなさんに書いてもらったものです。指導に携わった三浦和代編集委員は、「子どもたちは小櫃の未来について本気で考え、小櫃の良さや失ってはいけないものを再認識したのではないでしょうか。また『郷土愛、小櫃愛』にめざめるよい機会にもなったと思います」とお話ししてくれました。

企画③小櫃公民館マスコットキャラクター　発表

小櫃公民館のマスコットキャラクターとして、「おびつどん」（おとなの部・古賀直子さん作）と「こふんくん」（こどもの部・吉田康祐さん作）の２つのキャラクターが発表されました。



こふんくん

おびつどん

「おびつどん」は、ごはんの妖精をイメージし、耳は米つぶ、目はごまつぶに。茶碗の柄は、小櫃川と田んぼのデザインです。

「こふんくん」は、小櫃の三大古墳（前方後円墳）をイメージし、マントの模様が久留里線の列車の色と小櫃特産のいちごの組み合わせになっています。

選ばれたマスコットキャラクターは、様々な部分で活用させていただきます。

特別展「小櫃公民館開館から50年のあゆみ」

特別展では写真付き年表、公民館主催事業やサークルの変遷、成人を祝う集い（現在は20歳のつどい）の集合写真を展示しました。

これらは、小櫃公民館開館50周年記念誌「半世紀の歩み」そして未来へ」の編集過程で収集した資料が中心となっています。記念誌は来年２月に発行予定です。

ORAGAICHI（おらが市）を開催しました！

公民館開館50周年の特別企画として、文化祭2日目に開催された、てづくり市場「おらが市」。駐車場では、前号の「おびつびと」で紹介した鈴木奈津子さんの移動美容車「MUSUBI」が設置され、子どもカットや前髪カットの提供、訪問カットの展示が行われました。

中庭では、塩田美和子さんのプリンやわくわく倶楽部のクラフトバッグ販売に加え、おらが市を運営している「ちょボラの会チャリティーバザー」が開催されました。

バザーの収益金は今後、公民館の快善活動や環境整備のために活用します。バザー品物の提供にご協力いただいた皆さん、当日お買い物や遊びに来てくれた皆さん、ありがとうございました！

ちょボラの会では一緒に活動してくれるメンバーを募集しています。興味がある方は公民館までご連絡ください！

みんなで作ったガーランド

公民館内に飾られているガーランド

公民館内に飾られているガーランドは、手芸やお裁縫をするときに出る「布のハギレ」や不要になった洋服などを使い、公民館利用者や住民の協力により作成されました。ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました！

新たな挑戦が盛りだくさん New 小櫃をご紹介！

今年の文化祭は「出会い ふれあい 学びあい～New 小櫃に Come ON！～」をテーマに開催しました。新しく文化祭に参加した団体や、様々なことにチャレンジをした皆さんをご紹介します！

ボランティア
上総小櫃中学校生徒のボランティアが大活躍！

かずさチェロクラブ
チェロのアンサンブルで、きれいな音色が講堂中に響き渡りました。

富弘美術館を囲む会「菜の花」
星野富弘を偲んで開催された朗読会。大勢の人が集った茶室は感動の空気に包まれました。

ふるさとの水を守る会
稲田明さんによる、水の大切さをうたう小さな演奏会が開催されました。

小櫃保育園
園児たちの力で完売！さつまいもを販売しました！

昂書道塾
子どもたちは「将来の夢」を書き、大人は「龍」をテーマに披露しました。

カフェおびつ
有志による1日限定のカフェ出店。おいしいブラジルコーヒーを提供しました！

おびつだより
第234号
編集・発行
〒292-0451 ☎35-2488
君津市末吉１２８
小櫃公民館

小櫃の人口

男	2,229人（－８）
女	2,221人（－９）
計	4,450人（－17）
世帯数	2,032戸（＋１）

〈令和6年10月末(7月末比較)〉

開館50周年記念事業を大紹介！

開館50周年を記念し、小櫃公民館ではさまざまな記念事業を実施しています。

第一弾：11月2日㈯
俵田出身 世界的パティシエ 菅原智大（ともひろ）さん講演会「有言実行の世界一」

２０１８年６月、オーナーパティシエとして石川町（横浜）に〝ラトリエ ドゥ アンティーク〟を構えた菅原さん（お店は3年前に菊名に移転）。日本代表として参加した２０１９年ＦＩＰＧＣミラノ世界大会では、チーム総合優勝と個人味覚部門優勝という栄誉に輝きました。今回この講演会を開催するにあたり、飴細工の実演をお引き受けいただいたほか、その世界大会個人部門でベストアントルメ（＝デザート）に選ばれた「カグラ」や、店名を冠した「アンティーク」など、お店を代表する４種類のケーキを、当日１００個限定でご用意いただけることになったのです！　ケーキは講演会終了後に館内で召し上がっていただくこととし、公民館全体をカフェに設え、ご参加のみなさんをお迎えしました。

講演会の対談相手は、小さい頃の菅原さんをよくご存じの森弘子さん。初めに、菅原さんが出場した世界大会の映像や写真を解説していただき、その後対談へ。お菓子作りに目覚めたきっかけや修行中のエピソード、優れた味覚はどうやって培ったのかなどをインタビュー。対談の途中、会場にお見えになっていた菅原さんのお父様やお兄様に、小さい頃の智大さんのことをお話ししていただく場面もありました。

また、対談相手の森さんが〝忘れられないアントルメ〟として紹介したのが、ガラムマサラ入りのチョコレートケーキのこと。スパイスのきかせ方が絶妙で、文字どおり舌をまいたそうです。が、当の菅原さんは「自分の味覚が優れているという自覚はあまりなくて…」とご謙遜（いやいや、世界大会の味覚部門で個人優勝ですから！）。

時にはお菓子作りで行き詰ることがあるそうですが、そんな時、頼りにしているのが奥様の美妃さん。お店のパンフレット作成やインスタグラムへ美しいケーキの写真を投稿するのは美妃さんの担当なのだそうです。そんな菅原さんにこれからの目標をうかがうと、「１００人が食べて１００人が『美味しい！』と感じるようなお菓子作りを目指すこと」とお話ししてくださいました。また「どんなに小さい目標でもいいから自分で決めて、挫折もあるかもしれませんが、それに向かってあきらめないことが大事」とメッセージをいただきました。

対談後は飴細工の実演です。当日はあいにくの雨降りでしたが、繊細な手さばきで深紅のバラとリボンを作っていただきました。実演の前には、制作に一か月を要したという飴細工作品『時～春夏秋冬～』もご披露していただきました。

菅原さんご夫妻、朝早くからご準備いただき、優雅な貴重な時間を本当にありがとうございました。

対話と飴細工実演の様子を動画で見ることができます！

菅原智大さんと森弘子さんが対談をしている様子

菅原智大さん、美妃さんとボランティアの高校生

第二弾：11月23日㈯
三田出身 教育学博士 篠田義明さん「ことばの講演会～『ももたろう』から学ぶ日本語の礎～」

三田出身の篠田義明さんは91歳の現在も、早稲田大学の名誉教授としてご活躍中です。この日も、大学での講義よろしく、誰もが一度は聞いたことがある『ももたろう』をテキストに、日本語の正しい使い方についてお話をしていただきました。当日はメイン会場を小櫃公民館とし、篠田さんの多くの著書が蔵書となっている中央図書館をサテライト会場に、さらにオンラインでの配信も行いました。

講演会は、「私と小櫃の関係」というお話から始まり、私たちが日常話すこと・聞くことには一定のルールが存在しているということを、時に鋭く、時はユーモアを交え、解説していただきました。いわく、最初の言葉ほど相手の記憶に残りやすいため、伝えたい事柄には優先順位をつけて重要なことから伝えることが大事、ということ。また、言葉にも相性があるため、よい組み合わせで使うことが大事であること（例えば、「将棋」は「する」のではなく「指す」、「検討」は「行う」のではなく「加える」）など、日本語の奥深さが再認識できるようなポイントを、分かりやすく説明していただきました。

参加者からは「『人間は一生勉強する動物です』や『頭が悪いのではなく調べていないのですよ』という言葉が印象的でした」「誤った言葉の使い方をしていることに気付き、はっとしました」「安易に『の』を多用してはいけませんね」と、さまざまな感想が寄せられました。

〝挑戦は知識を造る 知識は人格を造る 人格は楽しい人生を導く〟という篠田先生の信条で締め括られた講演は圧倒的な説得力に満ち、またインターネットではなく「辞書で調べる」ことの大切さも痛感した、飛び切りの２時間となりました。

わたし流・公民館の使い方

開館50周年記念連載として、公民館を日常的に活用している方の利用方法を紹介します。今号では、「里の家」を運営している日本赤十字奉仕団の塩田美和子さんにお話を伺いました。

里の家について

高齢者支援活動の一環として、高齢者に憩いの場所を、そのご家族にほっとできる時間を提供することを目的として行っているデイサービスです。小櫃公民館では毎月第1・第3火曜日に活動をしています。利用者の皆さんは、90代でひとり暮らしの方も多いので、人と話すことで元気が出るようにと話しやすい雰囲気を作るように心がけています。

里の家ってどんな場所？

利用者の皆さんにインタビューをしてみると、「みんなでいろいろな活動をしたり、教えてもらったりできる場所です」「ひと月に2回では物足りないくらいです」「食事を用意してもらえるのが嬉しいですし、これからも元気に通いたい場所です」「一人暮らしなので、ここに来て、みんなとお話をするのが楽しいです」と笑顔で話してくれました。

お裁縫をしている斎藤さん（左）と塩田さん（右）

活動をしていて思うこと

とにかく元気をもらえます。野菜の育て方や種をまく時期などについてはしっかり覚えていて、教えてくれるんです。利用者の皆さんは、食べ物も、着る物にも不自由した戦時下を生き抜いてきた方たちなので、里の家にいるときくらいはわがままを言っていいと思っています。そして元気で長生きしてほしいです。

最後に、いつも調理室や和室をお借りしている公民館や活動に協力をしてくれる各地区の奉仕団には本当に感謝しています。この活動を繋いでいきたいと思っています。

奉仕団の活動や、里の家について興味がある方は、公民館までお問い合わせください。

お茶の時間を楽しんでいる様子

小櫃の動き

◎第48回小櫃地区ふるさと祭り　9月15日㈰

郷土芸能の発表や中学生ボランティアの運営参加など新しい試みのなか、5年ぶりに小櫃スポーツ広場での開催となりました。

「いろんな人が踊りに参加していて良かった。楽しかった」「スポーツ広場での開催がうれしかった」と喜びの声がたくさん聞けました。

また、祭り当日には、能登半島地震の復興支援を目的とした募金活動が行われ、多くの寄付が寄せられました。

◎白山神社秋季例大祭　9月29日㈰

一時的に大雨に見舞われましたが、「俵田白山神社神楽保存会」、「西原睦会」、「三田青年会」の3団体が神楽を奉納し、力強い神楽舞を披露しました。境内には多くの人々が集まり、活気に包まれていました。

神楽舞の様子（西原睦会）

◎寺沢秋祭り　10月5日㈯

コロナ禍前は、「夕涼み会」として夏に開催していましたが、より多くの子どもが参加しやすいようにと秋の開催となりました。

イベントの最後には花火が打ち上げられ、多くの人で賑わいました。

◎小櫃地区敬老会　10月13日㈰

小櫃地区で卒寿（90歳）を迎えられた方は27名、そのうち10名の方が敬老会に参加しました。地元有志による歌や踊りなどの発表の後は、みんなで元気に歌を歌い、参加者は楽しいひと時を過ごしました。

公民館改善報告
～女子トイレ洋式化～

10月15日から24日にかけて工事を行い、女子トイレに洋式トイレを1基設置しました。

また、男女共用の多目的トイレ（洋式）も、より使いやすくリニューアルしましたのでお気軽にご利用ください！

編集後記

菅原さんの講演会は、カフェや中高生のボランティア、生け花に窓ガラスアートとたくさんの人に協力をしてもらいました。また、文化祭・記念講演会ともに多くの人が公民館に訪れてくれました。関わってくれた全ての方に感謝します。

皆さんと一緒に開館50周年を迎えられることが本当に嬉しいです。これからも小櫃公民館をよろしくお願いします！　（愛）